

(続紙 1)

京都大学	博士 (情報学)	氏名	KOLAHI Mahdi
論文題目	Synergisms for the Intricate System of Biodiversity and Society in the Conservation Management of Iran(イランにおける自然環境の保全管理に関する生物多様性と社会の共働)		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、イランにおける国立公園等の自然環境保全エリアでの生物多様性の維持と人々との関わり方等について現地調査やWebアンケート調査等を用いて検討したものである。</p> <p>第1章では本研究の目的および論文構成について論じている。</p> <p>第2章では、文献調査等によりイランの自然環境保全エリアでの問題点について検討を行い、イランの自然環境エリアのわずか2%しか、効率の良い管理がなされていない現状を指摘し、本研究の課題を明らかとした。</p> <p>第3章ではイランのKhojir National Parkをフィールドとして、世界銀行およびWorld Wide Fund for Nature(WWF)が提唱したManagement effective tracking tool(METT)を用いて管理効率の評価を行い、環境保護官の適切な配置が自然環境保全のために重要であることを明らかとした。</p> <p>第4章と第5章では、Webアンケートを用いてエコツーリズムの参加者および一般市民の自然環境保全への関心度、自然環境保全のための基金への支払意志額等の調査を行った。その結果、1)環境保全への取り組みに積極的に参加する意志があること、2)環境保全のための経費の支払い意志があること、3)自然環境保全エリアの増加を望んでおり、自然環境保全エリアを訪れたいと考えていること、4)生物多様性の保全については政府だけでなく一般市民にも責任があること、などを明らかとした。さらに、アンケート調査に基づき、自然環境保全エリアへの入場料の支払意志額をUS\$4(49,905 Rials)と推定した。</p> <p>第6章では、Khojir National Parkの周辺住民へのアンケート調査と面接調査を実施し、彼らのエコツーリズムへの関心、環境保全活動への参加の意思等について分析を行った。その結果、住民たちはKhojir National Parkの現状と環境問題に関するごく一般的な知識は持っているものの、政府担当者と地域住民との意思疎通が十分になされていないことおよび周辺地域間で意識等に大きな隔りがあることを明らかとした。</p> <p>第7章では、本論文の分析結果に基づき総合考察を行っている。イランにおける自然環境保全の取り組みに関しては、1)生物多様性に対する国民の認識を高めること、2)生物多様性を保全するための公的な取り組みを強化すること、3)地域の活性化等のために、自然環境保全地域へのエコツーリズムの導入を促すこと等を目標にすることを提案している。また、政府機関の役割として、自然環境保全に対して政策面での現実的な支援の必要性を指摘し、野生動物の生息域の回復、保全、国民に対する自然環境保全への啓発、教育、自然環境保全へのボランティア活動を促す計画の策定等の必要性を指摘している。さらに、国際機関が提示しているガイドラインに則った自然環境保全への取り組みの重要性を指摘している。</p>			

注) 論文内容の要旨と論文審査の結果の要旨は1頁を38字×36行で作成し、合わせて、3,000字を標準とすること。

論文内容の要旨を英語で記入する場合は、400～1,100 wordsで作成し
審査結果の要旨は日本語500～2,000字程度で作成すること。

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、文献調査、現地調査、Webアンケート調査等の社会調査方法を用いて、イランにおける国立公園等の自然環境保全エリアでの生物多様性の維持と人々との関わり方等について検討したものである。

第2章では文献調査を中心として、イランにおける自然環境保全エリアの指定数、面積等の過去40年の動向とこの間のイランの環境保全政策との関連性についてまとめている。この分析の中で、イランにおける自然環境保全の課題として、1)人材不足、設備不足、財源不足、2)生物多様性を表す客観的な指標の不備、3)自然環境保全エリアでの地域住民と管理者との意見の相違などを示した。さらに、イランの自然環境保全エリアのわずか2%しか効率の良い管理がなされていないことを明らかにし、本論文で取り上げる課題の位置付けを明確にしている。

第3章イランのKhojir National Parkをフィールドとして、世界銀行およびWorld Wide Fund for Nature(WWF)が提唱したManagement effective tracking tool(METT)を用いて管理効率の評価を行っている。METTは自然環境保全の管理効率を定量的に評価する国際的指標の一つであり、イラン国内の自然環境保全エリアの評価に初めて導入した点で新規性がある。METTによる分析の結果、環境保護官の適切な配置が自然環境保全のために重要であることを明らかとした。この分析は、イランにおける自然環境保全の取り組みに対する問題点を国際基準に照らして明らかにした点で評価できる。

第4章、第5章ではイランの自然環境保全エリアへのエコツーリズムの参加者、およびイランの一般市民へのアンケート調査に基づき、自然環境保全への関心度、自然環境保全のための基金への支払意志額等の調査を行った。アンケート調査に基づいて自然環境保全エリアへの入場料の支払意志額をUS\$4(49,905 Rials)と推定した。また、1)環境保全への取り組みに積極的に参加する意志があること、2)環境保全のための経費の支払い意志があること、3)自然環境保全エリアの増加を望んでおり、自然環境保全エリアを訪れたいと考えていること、4)生物多様性の保全については政府だけでなく一般市民にも責任があること、などを明らかとした。これらの結果はイランの一般市民の自然環境保全に関する意識等の基本的情報を与えており、今後の環境保護政策立案のための有用な資料となると考えられる。

第6章では、Khojir National Parkの周辺住民へのアンケート調査と面接調査を実施し、彼らのエコツーリズムへの関心、環境保全活動への参加の意思等について分析を行った。この調査は、自然環境保全エリア周辺の住民の意識と自然環境保全政策との利害調整を図る際の重要な情報となりうる。

第7章では、本論文の分析結果に基づき総合考察を行い、イランにおける自然環境保全の取り組みの課題と政府機関の役割を整理して提示した。また、国際機関が提示しているガイドラインに則った自然環境保全への取り組みの重要性を指摘している。これらの指摘は、今後のイランの環境保護政策立案に役立つことが考えられる。

よって、本論文は博士(情報学)の学位論文として価値あるものと認める。

また、平成25年8月8日、論文内容とそれに関連した口頭試問を行った結果合格と認めた。

注) 論文審査の結果の要旨の結句には、学位論文の審査についての認定を明記すること。更に、試問の結果の要旨(例えば「平成 年 月 日論文内容とそれに関連した口頭試問を行った結果合格と認めた。」)を付け加えること。

Webでの即日公開を希望しない場合は、以下に公開可能とする日付を記入すること。
要旨公開可能日： 年 月 日以降